

令和 5 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立福翔高等学校	学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価 (総合)		
学校長	ふりがな 氏 名	とう きくえ 藤 菊英	志を持ち、自らの目標を達成しようとする生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意気・力」の校訓を具現化する学校をつくる。 そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実施する。 また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、福翔改革を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。	1. 組織的な学校運営と危機管理の徹底：「すべては生徒のために」を常に意識し、教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたることと、自覚的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 2. 福翔改革サードステージ第3章の推進：キーワード「総合学科」「伝統×時代」「授業改善×アントレプレナーシップ教育」のもと、昨年度決定事項を着実に実行するとともに、本年度は新たにコース・プログラムの名称・編成、カリキュラムの見直し、大学等特別入試への対応や高校入試制度等についての検討を進め、決定する。 3. アントレプレナーシップ教育の推進：「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」及び「ジュニア・アチーブメント・プログラム」等、全教職員で組織的に取り組んできた福翔キャリア教育をさらに磨き、福翔アントレプレナーシップ教育として確立させる。 4. 希望進路の実現と部活動の活性化：総合学科の強みを活かしながら、特別入試対策ガイダンス導入をはじめ、ガイダンスの機能をさらに充実させるとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。部活動活性化を推進する。(体制、実績、活動内容等) 5. 働き方改革への取組継続：ワークライフバランスの確立と生徒と向き合う時間の確保を目指し、業務改善を引き続き模索する。	学校自己評価	学校関係者評価
校長本校在任年数	1年					
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな 氏 名	かのう としのぶ 叶 俊信				

昨年度の成果と課題	【成果】新教育課程を踏まえた学校研修を実施し、ICTの効果的な活用や観点別評価の在り方、総合的な探究の時間の工夫を行い、全市に発信することができた。各学年の生徒の実態に応じた学習指導、生徒会活動、学校行事を行うことで自ら動くこととする生徒の育成に一定の効果が見られた。 【課題】ICTを活用した深い学びの実現については一層の研鑽を積む必要があり、外部人材の積極的な活用を行う必要がある。
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	自ら考え、自ら学ぶ姿勢を持つ生徒を育成する授業実践を図る。	観点別評価に対する教員の理解をすすめ、より生徒の主体的な学習につながる授業実践に向けて助言する。 ICTの活用を一層推進することで、生徒の深い学びにつなげる。					
生徒指導	規範意識の高い生徒を育て、18歳から成人になる意識を持たせる。 「福翔高校いじめ防止基本方針」に基づき、総合的かつ効果的にいじめ防止を推進する。	これまでの特色化選抜入学者のうち、教科領域の入学者の成績を検証することで、課題を明らかにし、改善点を検討し、特色化選抜入学者が抱える学校生活での課題を検証し、入学後のミスマッチがなくなるよう工夫する。 自転車通学者に対し、登下校、駐輪、交通マナー指導を定期的に行い、主体的に行動できるようにさせる。 生徒には、その場に応じた挨拶や状況に応じた適切な行動を身につけさせ、学校外でも地域の方々に愛される態度を育成する。 定例の(月1回)「いじめ防止対策委員会」とその事務局会(週1回)において、未然防止、早期発見、早期解決等にあたる。 生徒がネットによる被害者・加害者にならぬよう、情報端末機器を適切に扱う力を身につけさせ、互いに認め、支えあう人間関係づくりを推進する。					
進路指導	生徒一人一人の進路保障を目指し、適切な指導・助言を行う。 生徒・教師・保護者間の連携の充実を図る。	生徒の進路保障のための課外や補習を計画し、生徒が入試に対応できる学力を身に付けさせる。 共通テスト・小論文などの進路ガイダンスを計画的に実施したり、校内向けの進路指導研修会を適切に実施する。 googleワークスペースを活用し、生徒に対して進学や就職に関する案内を積極的に情報を発信する。 スタディサプリを活用し保護者向けの情報発信の方法を確立し、運用することで生徒の進路実現につなげる。					
学校改革	サードステージ第2章の取組みを円滑に進めるとともに、キャリア教育を教育を中心とした特色ある取組内容を積極的に発信する。 また、次のステージに向けた方策検討を行う。 ジュニアアチーブメントプログラムなどキャリア教育における取組や学校行事、授業などにおいてICTの活用などにより改善を推進する。	「サードステージ第2章」(3つのプログラム、3つのオプション)を進め、進学実績向上、部活動活性化、グローバル人材の育成を推進するとともにその取組を積極的に発信する。 改革検討委員会の活動を活性化し、学校改革の方策について議論し、改革を推進する。 googleclassroomやFormsなどソフトツェアを使いわけ、効果的に活用することで、校務の情報化を進める。 ICT活用を含め、これまでの前例にとらわれることなく新しい方法を検討し授業や行事の改善を検討・実施していく。					
キャリア教育の充実	アクティブラーナーの育成を図る。 学習活動を通じて基礎的・汎用的能力の育成を図る。	1年次の「産業社会と人間」の授業を通して、主体的にキャリアをデザインし、学び続ける姿勢を涵養する。 SDG'sやレジリエンス「力」を通じて、主権者「マインド」意欲・アウトプットの3つの資質・能力を身に付けさせ、生徒の学習への意識向上を図る。 行事を通じて人間関係形成・社会形成能力やキャリア形成能力の向上を図る。 日常の学習を通じて自己理解・自己管理能力や課題対応能力を身に付けさせる。					

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度、B…目標を上回る達成度、C…目標どりの達成度、D…目標を下回る達成度、E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取組み状況等について記入すること。

※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A~E)で評価すること。